

## 鳥取県乳がん検診実施に係る手引き

### 1 目的

全国的に乳がんの死亡率は、近年上昇傾向にあり、本県の死亡率も同様の傾向にある。乳がんは、早期に発見し治療すれば、比較的予後は良好であり、乳房の温存による生活の質の維持・向上が期待されることから、乳房に発生するがんの早期発見・早期治療を目的として、次のとおり乳がん検診を実施する。

### 2 実施主体

県内市町村

### 3 検診の対象者

当該市町村の区域内に居住地を有する40歳以上の女性(被用者等職域等において事業主または保険者が実施する検診で、この事業に相当する検診を受けることができる者を除く。)とする。ただし、現在妊娠中又は妊娠の可能性のある者、豊胸術等や心臓ペースメーカーを装着している者については、原則として、対象者から除くものとする。なお、検診は、原則として同一人について2年に1回行うものとする。

### 4 検診実施機関

下記に定める実施方法等で検診が実施できる検診機関とする。

### 5 実施方法

検査項目は、問診並びに乳房エックス線検査とする。

#### (1) 問診

問診は、乳がん検診受診票[以下「受診票」という。(様式例1)により、月経及び出産歴、授乳歴等に関する事項、既往歴、家族歴、乳房の状態、過去の検診受診状況等について聴取する。

#### (2) 乳房エックス線フィルムの撮影

##### ア 乳房エックス線フィルムの撮影

##### (ア) 撮影方法

内外斜位方向の1方向撮影とする。

なお、40歳以上50歳未満の対象者、および乳房切除後などで片側の乳房撮影を行う対象者については、内外斜位方向撮影とともに、頭尾方向撮影も併せて行う。ただし、乳房温存療法後並びにdense breastの対象者も内外斜位方向撮影とともに、頭尾方向撮影も併せて行うことを今後検討していく。

また、マンモグラフィーを撮影した技師が乳房の異常所見を見つけた場合は、そのコメントを記載することができる。

##### (イ) 実施機関の基準

乳房エックス線撮影の実施機関は、原則として日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす(満たさない場合は、線量(3mGy以下)および画像基準を満たす)撮影装置を備えるものとする。

なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了した診療放射線技師が乳房撮影を行うことが望ましい。

##### (ウ) エックス線写真の保管

エックス線フィルムは、最低5年間は保管しなければならない。

## イ 乳房エックス線フィルムの読影

### (ア) 読影委員会

乳房エックス線フィルム判定の精度確保を図るため、鳥取県乳がん検診マンモグラフィ読影委員会（以下「読影委員会」という。）を運営する。

### (イ) 読影方法及び判定

読影委員会が開催する読影会において、エックス線フィルムと受診票をもとに、全例の読影を実施し、その結果を記載する（様式例1）。

読影は、原則として日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する読影講習会を修了し、B2以上の資格を持った医師が行うこととし、さらに2名以上の医師により2重読影を行う。

判定は、「マンモグラフィによる乳がん検診の手引き－精度管理マニュアル」に従って行うものとする。

### (3) 自己触診指導

できれば、検診の場で受診者に対し、定期的な検診受診の重要性だけでなく、乳がんの自己触診の方法、しこりを触れた場合の速やかな医療機関の受診、またその際の乳房疾患を専門とする医療機関の選択等について普及啓発を図るよう努めることが望ましい。（様式例2）

### (4) 費用徴収（個人負担）

市町村の実情を勘案し、費用徴収を行うことができるものとする。

## 6 検診結果の区分

乳房エックス線検査で乳がんを否定できない場合を「要精密検査」、それ以外の者を「異常なし」と区分する。

## 7 結果の通知及び指導

(1) 読影委員会は、受診票により検診結果を市町村へ報告する。

(2) 市町村は、読影委員会からの報告に基づき、「異常なし」とされた者については、乳がん検診結果通知書（様式例3）により受診者に対し速やかに検診結果を通知する。

(3) 市町村は、「要精密検査」とされた者については、乳がん精密検査紹介状[以下「紹介状」という。（様式例1）]を作成し、鳥取県健康対策協議会（以下「健対協」という。）に登録されている乳がん検診精密検査登録医療機関（以下「精検機関」という。）で検査を受けるよう受診勧奨を行う（様式例4）。

(4) 読影不能と判定された場合は、一次撮影機関において再度撮影実施することができる。この場合の撮影実施に係る費用については、当該一次撮影機関の負担とする。ただし、同一医療機関で受診すること。また、マンモグラフィ不適と判定された場合は、マンモグラフィ以外での検診を受けるよう受診勧奨を行う。

(5) 市町村は、読影委員会からの報告に基づき、「判定不能（読影不能）」と判定された者については、乳がん検診結果通知書（様式例3-2）により、「判定不能（マンモグラフィ不適）」と判定された者については、乳がん検診結果通知書（様式例3-3）により受診者に対して速やかに検診結果を通知する。

## 8 精密検査の結果報告

精検機関は、精密検査を受けた者の検査結果を紹介状により市町村に報告する。ただし、一次検診を財団法人鳥取県保健事業団（以下「事業団」という。）又は財団法人中国労働衛生協会（以下「中国労働衛生協会」という。）で受診した者の紹介状について

は事業団又は中国労働衛生協会に返送し、事業団又は中国労働衛生協会は、精検結果をまとめて市町村に報告する。

## 9 記録の整備

- (1) 市町村は、氏名、性別、年齢、住所、過去の検診受診状況、受診指導の記録、検診結果、精密検査の必要性の有無、精密検査受診の有無、精密検査の確定診断の結果等を記録するものとする。また、必要に応じ個人票を作成し、これらの情報について整理するほか、治療の状況や予後、その他必要な事項についても記録するものとする。
- (2) 市町村は、別に定める確定調査実施要領に基づき、精密検査の結果が、がんまたはがん疑いの者の紹介状の写し等を、1 1に掲げる報告に併せて、県福祉保健部健康政策課を経由して健対協に提出するとともに、確定診断の結果、治療の状況等の把握に協力するものとする。ただし、事業団又は中国労働衛生協会は直接健対協に提出することとする。

## 10 精密検査未受診者受診勧奨

市町村は、精密検査未受診者の把握に努め、未受診者については、速やかに受診するよう勧奨する。

## 11 検診結果の報告

市町村は、当該年度の乳がん検診の結果及び精密検査結果について、健康増進事業等健康診査実施状況調査表（様式第1号）により、下記により、県福祉保健部健康政策課に報告する。

報告時期	報告対象者	備考
翌年度5月31日まで	3月31日までに精密検査を受診した者	中間報告
翌年度11月15日まで	10月31日までに精密検査を受診した者	最終報告

## 12 検診の評価、解析

検診結果及び確定調査の結果は、鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会、鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会で検討する。

## 13 検診の精度確保

乳がん検診従事者の技術の向上を図ることにより、検診の精度確保を図るため、鳥取県乳がん検診従事者講習会を行う。

附 則

この指針は、平成10年度の検診から適用する。

附 則

この指針は、平成17年度の検診から適用する。

附 則

この手引きは、平成22年度の検診から適用する。

附 則

この手引きは、平成25年度の検診から適用する。

附 則

この手引きは、平成26年9月25日から適用する。

附 則

この手引きは、平成28年11月29日から施行し、平成29年度から適用する。

附 則

この手引きは、平成29年4月21日から施行し、平成29年度から適用する。

附 則

この手引きは、平成30年5月10日から施行し、平成30年度から適用する。

附 則

この手引きは、平成31年3月27日から施行し、平成31年度の検診から適用する。

鳥 取 県 乳 が ん 検 診 受 診 票	
フリガナ 氏名	受診番号 生年月日 明・大・昭 年 月 日 ( 歳)
住所	電話番号 ( )
問  診	1, 今までに乳がん検診(マンモグラフィ)を受けたことがありますか。 ①ない ②ある →前回( 年 月頃) 医療機関( )
	2, 1で「ある」と答えた方で、その後に精密検査を受けた方のみ記入してください。 ①精密検査を受けた医療機関( ) ②精密検査の結果はどうでしたか。 部位(左・右) 結果( )
	3, 乳腺に自覚症状はありますか。 ①ない ②ある →(しこり・痛み・分泌物)
	4, 月経 ①規則的 ②不規則 ③閉経( 歳)
	5, 血縁者にがんになった人がいますか ①ない ②ある(乳癌・卵巣癌・その他 )
	6, 今までに病気にかかったことがありますか。 乳腺( ), 婦人科( )
	7, ホルモン補充療法(更年期障害治療)の有無。①ない ②ある
	8, 妊娠・出産したことがありますか。 ①ない ②ある 妊娠( )回、出産( )回、初産( )歳
	9, 授乳したことがありますか。 ①ない ②ある
	10, 現在妊娠中又は妊娠の可能性。 ①ない ②ある
	11, 胸部の手術をうけたことがありますか。 ①ない ②ある( 左、右、術式 ) →(心臓ペースメーカー・豊胸術・その他( ))

※お願い

平素から乳がん検診に御理解、御協力をいただきありがとうございます。1次検診結果は右ページのとおりでしたので、精密検査をお願いします。つきましては、ご面倒ですが、精密検査の結果を御記入の上、ご返送いただきますようお願いいたします。

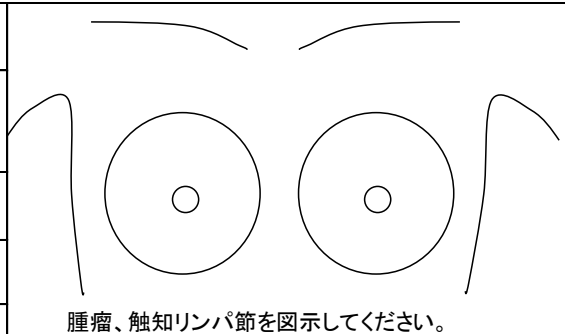
## 乳がん精密検査紹介状

主治医様

年 月 日

市町村名

精 密 検 査 結 果	
皮膚	(1) 発赤・浮腫・静脈怒張：無・有(右・左) (2) 潰瘍：無・有(右・左)
腫瘍	(1) 無・有(右・左) 大きさ( × cm) (2) 固定：無・有(皮膚・胸筋・胸壁・その他 ) (3) 随伴所見 ( )
乳頭	(1) びらん：無・有(右・左) (2) 異常分泌：無・有(右・左)(血性・漿液、その他 )
リンパ節 腫脹	(1) 腋窩：無・有(硬・軟) (2) 鎖骨上：無・有(硬・軟)
診断法	(1) 画像診断 ① MMG: 所見なし・異常所見(腫瘍・FAD・石灰化・構築の乱れ・その他 ) ② 超音波: 所見なし・異常所見(腫瘍(充実性・混合性)・のう胞・その他 ) ③ その他( ): 異常所見 ( ) (2) 生検(有・無) ① 穿刺吸引細胞診(悪性・悪性疑・良性・良悪性判定困難・検体不適 ) ② 乳頭分泌細胞診(悪性・悪性疑・良性・良悪性判定困難・検体不適 ) ③ 針生検 (悪性・悪性疑・良性・良悪性判定困難・検体不適 ) ④ 外科的生検 組織診断 (3) その他
診断名	(1) 異常認めず (2) 乳腺症 (3) 良性疾患(のう胞・線維腺腫・良性腫瘍 ) (4) 石灰化病変(良性・鑑別困難 ) (5) 乳がん(TNM・病期: 0、I、II、III、IV、不明 ) (6) その他( )
精検受診年月日 年 月 日	診断年月日 年 月 日
治療不要(集検受診勧奨) 経過観察 (医療機関 ヶ月後再診予定) 要医療 手術・薬物療法 他医療機関への紹介	指導 区分
医療機関名	医師名



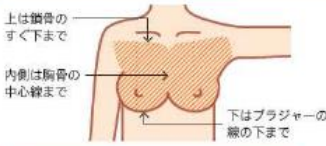
# 一 次 検 診 結 果

マンモグラフィ撮影・評価	氏名 _____		撮影日 年 月 日		
	撮影機関名 _____		フィルム番号 _____		
	マンモグラフィ撮影技師のコメント記入欄 (右) しこり、えくぼ状陥凹、乳汁分泌(無色、白黄色、茶色、血性)、ほくろ、傷跡、その他 (左) しこり、えくぼ状陥凹、乳汁分泌(無色、白黄色、茶色、血性)、ほくろ、傷跡、その他 記入者名 _____				
	右乳房		左乳房		
画像評価	□読影不能 理由( )		□読影不能 理由( )		
判定不能	N-1(MMG再検)	N-2(MMG不適)	N-1(MMG再検)	N-2(MMG不適)	
マンモグラフィ所見・読影医①			所見1 (右、左) 腫瘍 U O ■腫瘍(単発、多発、大きさ ) M I 形状(円、楕円、多角、分葉、不整形) L S 辺縁(境界明瞭、微細分葉、境界不明瞭、スピキュラ、評価困難) S W 濃度(脂肪含、低、等、高) X 濃度(脂肪含、低、等、高) W ■随伴する石灰化(あり、なし)	石灰化 ■良性石灰化(血管・線維腺腫・乳管拡張症、石灰乳、中心透亮円形・点状・その他 ) ■良悪の鑑別が必要 微小円形・不明瞭・多形・線状分枝 散在・領域・区域・線状・集簇	その他所見 ■乳腺実質(梁柱肥厚・管状影・構築の乱れ・FAD・非対称乳房組織) ■皮膚(陥凹・乳頭陥凹・皮膚肥厚・皮膚病変) ■リンパ節(腋窩、乳房内)
			所見2 (右、左) U O ■腫瘍(単発、多発、大きさ ) M I 形状(円、楕円、多角、分葉、不整形) L S 辺縁(境界明瞭、微細分葉、境界不明瞭、スピキュラ、評価困難) S W 濃度(脂肪含、低、等、高) X 濃度(脂肪含、低、等、高) W ■随伴する石灰化(あり、なし)	石灰化 ■良性石灰化(血管・線維腺腫・乳管拡張症、石灰乳、中心透亮円形・点状・その他 ) ■良悪の鑑別が必要 微小円形・不明瞭・多形・線状分枝 散在・領域・区域・線状・集簇	その他所見 ■乳腺実質(梁柱肥厚・管状影・構築の乱れ・FAD・非対称乳房組織) ■皮膚(陥凹・乳頭陥凹・皮膚肥厚・皮膚病変) ■リンパ節(腋窩、乳房内)
	カテゴリー(右) 腫瘍、FAD、石灰化、その他 1 2 3 4 5	カテゴリー(左) 腫瘍、FAD、石灰化、その他 1 2 3 4 5	診断日 年 月 日 読影医①		
マンモグラフィ所見・読影医②			所見1 (右、左) 腫瘍 U O ■腫瘍(単発、多発、大きさ ) M I 形状(円、楕円、多角、分葉、不整形) L S 辺縁(境界明瞭、微細分葉、境界不明瞭、スピキュラ、評価困難) S W 濃度(脂肪含、低、等、高) X 濃度(脂肪含、低、等、高) W ■随伴する石灰化(あり、なし)	石灰化 ■良性石灰化(血管・線維腺腫・乳管拡張症、石灰乳、中心透亮円形・点状・その他 ) ■良悪の鑑別が必要 微小円形・不明瞭・多形・線状分枝 散在・領域・区域・線状・集簇	その他所見 ■乳腺実質(梁柱肥厚・管状影・構築の乱れ・FAD・非対称乳房組織) ■皮膚(陥凹・乳頭陥凹・皮膚肥厚・皮膚病変) ■リンパ節(腋窩、乳房内)
			所見2 (右、左) U O ■腫瘍(単発、多発、大きさ ) M I 形状(円、楕円、多角、分葉、不整形) L S 辺縁(境界明瞭、微細分葉、境界不明瞭、スピキュラ、評価困難) S W 濃度(脂肪含、低、等、高) X 濃度(脂肪含、低、等、高) W ■随伴する石灰化(あり、なし)	石灰化 ■良性石灰化(血管・線維腺腫・乳管拡張症、石灰乳、中心透亮円形・点状・その他 ) ■良悪の鑑別が必要 微小円形・不明瞭・多形・線状分枝 散在・領域・区域・線状・集簇	その他所見 ■乳腺実質(梁柱肥厚・管状影・構築の乱れ・FAD・非対称乳房組織) ■皮膚(陥凹・乳頭陥凹・皮膚肥厚・皮膚病変) ■リンパ節(腋窩、乳房内)
	カテゴリー(右) 腫瘍、FAD、石灰化、その他 1 2 3 4 5	カテゴリー(左) 腫瘍、FAD、石灰化、その他 1 2 3 4 5	診断日 年 月 日 読影医②		
■ 乳腺の評価(脂肪性・乳腺散在・不均一高濃度・高濃度 ) ■ 比較読影：あり・なし      ■ 経時的な変化：軽快・不変・憎悪					
総合判定 ①異常なし ②要精検					

自分で

## 見て・触って乳がんセルフチェック法

乳がんは、早期の場合、痛みなどの初期症状がほとんどありません。早期発見のためには、がん検診が有効なのですが、自分で定期的に乳房のセルフチェック(自己触診)をすることで、小さな変化や異常に気づきやすくなり、がんを早期発見できる可能性が高まります。日頃から乳房に変化がないか、定期的にセルフチェックを心がけましょう。

チェックを行う範囲	方法
	<p><b>見てチェック</b> 鏡に上半身を写して調べます。</p> <p><b>触ってチェック</b> 皮膚の上から乳房全体を軽く圧迫するように触り、調べます。 ※乳首を観察するとき以外はつままない!</p>
<p><b>セルフチェック日</b></p> <p>毎月1回、月経終了の1週間以内に(閉経した人は、毎月、日を決めて)調べましょう。</p>	

### チェックすべき症状

乳房のしこり、えくぼやただれなど皮膚の変化、脇の下のリンパ節のはれ、乳頭からの分泌、左右差があるかどうか

### 見てチェック 鏡の前で



①手を下げてリラックスして見る。



②両手を腰に当てて見る。胸の筋肉が緊張して変化が強く出る場合もある。



③頭の手で手を組み、胸の筋肉を緊張させて見る。



④側面、斜めからも見る。

### 触ってチェック お風呂で



①手を下げたまま、4本の指の腹で、「の」の字を書くように乳房全体を軽く圧迫するように調べる。(左乳房は右手、右乳房は左手)



②腕を上げた状態で①と同様に調べる。



③乳首をつまんで分泌物が出ないかを調べる。

### 触ってチェック ベッドや布団の上で



①調べる側の乳房の下に枕などを当て、乳房が平均に広がるようにする。調べる側の腕を頭の後方に上げ調べる。



②腕を下げた状態でも同様に調べる。



③最後にわきの下にしこりがないか調べる。(座った体勢でも調べる)

気になることがあったら、かかりつけ医等に相談し、必要に応じて乳腺を専門とする医師を紹介してもらいましょう。

年 月 日

様

市町村名

乳がん検診結果通知書

過日実施しました検診の結果、異常は認められませんでしたのでお知らせします。

これからも検診を2年に1回は受けられ、日常の健康管理の一環としての自己触診にも努められるようお勧めします。

また、乳房に何か異常が感じられる時は、検診機会を待つことなく速やかに乳房疾患を専門とする医療機関にご相談されるようお勧めします。



年 月 日

様

市町村名

乳がん検診結果通知書

過日実施しました検診の結果、判定不能（要再検）となりましたのでお知らせいたします。

この結果は、マンモグラフィー撮影時のなんらかの原因によって、正常に撮影されなかった可能性が考えられます。そのため、ご面倒とは存じますが、再度のマンモグラフィー検診を受診していただくようお願いいたします。

なお、再度のマンモグラフィー検診の受診にあたっては、料金の徴収は行わないことといたします。

また、乳房に何か異常を感じられる時は、検診機会を待つことなく速やかに乳房疾患を専門とする医療機関にご相談されることをお勧めいたします。

年 月 日

様

市町村名

乳がん検診結果通知書

過日実施しました検診の結果、判定不能となりましたのでお知らせいたします。

これは、撮影されたマンモグラフィーでは、種々の条件により乳がんの有無の判定ができない、という結果です。そのため、今後もマンモグラフィー検診を受診されても、同様に判定不能という結果となることが予想されます。

本年度も含め、今後の乳がん検診は、直接、医療機関等で他の検査方法（超音波検査など）を受けられることをお勧めいたします。

なお、マンモグラフィー以外の検査方法は市町村の集団検診では行っておりません。医療機関における超音波検査などの乳がん検診（あるいは人間ドックなど）は保険診療ではできませんので自費となります。別紙の医療機関にあらかじめご連絡の上、受診してください。

また、乳房に何か異常を感じられる時は、検診機会を待つことなく速やかに乳房疾患を専門とする医療機関にご相談されることをお勧めいたします。

年 月 日

様

市町村名

乳がん検診結果のお知らせ

先日あなたが受けられました乳がん検診の結果、精密検査を受けられるようお勧めします。

なお、精密検査をお受けになるときは、別紙の名簿のうち、希望される医療機関に前もって検査の日時などをご相談のうえ、その指示によって検査を受けてください。

また、検査の当日は、次のことに気をつけてください。

※同封の紹介状をお忘れなく主治医に提出してください。

※保険証を必ず持参してください。

\*精密検査の結果、異常のない場合もありますので、念のため申し添えます。

